

最後の代官 忠左衛門日記

②

代官・岩本忠左衛門(1862)など江戸末期の有名な事件についての伝聞記録もあるが、その中には次のような苦労話も残されている。江戸にいた十倉領の谷家旗本・谷衛久は家督相続して間もない文久3年

鉄砲隊だが鉄砲確保に苦労

それでも衛久軍活躍を伝える書簡も

(1863)に「講武所砲術方」と称する、衛久は、家来のために準備していた具に準備していた具を売り払って鉄砲を購入する費用に充てるよう家来に命令し、業者に見積もら

(1863)に「講武所砲術方」と称する、衛久は、家来のために準備していた具を売り払って鉄砲を購入する費用に充てるよう家来に命令し、業者に見積もら

水戸藩の尊攘派が筑波山で挙兵した「天狗党の乱」(1864)で幕府軍の一員として出陣。衛久の軍が活躍する様子を伝える戦場からの書状が、江戸屋敷を通じて忠左衛門に届いている。

上、ある程度の鉄砲を確保して緊急時に備えねばならないが、わずか2千石の旗本にはそれだけの財力がなかった。

上、ある程度の鉄砲を確保して緊急時に備えねばならないが、わずか2千石の旗本にはそれだけの財力がなかった。

「常陸国(今の茨城県)御出陣先より来」で始まるのがその手紙で、刀や槍、大砲が入り乱れる戦鬪の様相が書き記されている。



「天狗党の乱」で衛久らの活躍ぶりを伝える書状